

(様式)

普及項目	養殖
漁業種類等	養殖業
対象魚類	マガキ
対象海域	熊本有明海

干潟漁場におけるマガキシングルシード養殖試験指導

県北広域本部水産課・永田 大生

【背景・目的】

管内干潟漁場は、ノリ養殖業の経営体数の減少及びアサリ採貝業の不振のため、未利用漁場が増加傾向にある。そこで、漁業者の新たな収入源と担い手確保を目的として、高品質なマガキを効率的に生産可能な「バスケットカゴ(以下「バスケット」という。)」を活用したマガキシングルシード養殖の導入を図った。今年度は、地元漁業者が主体的に実施する養殖試験を支援し、干潟漁場におけるマガキ育成手法を検討することを目標とした。

【普及の内容・特徴】

月日：令和2年(2020年)10月2日・19日、11月4日・27日、12月15日・29日、

令和3年(2021年)1月27日、2月27日、3月17日、3月29日 計9回

試験実施場所：玉名郡長洲町地先のノリ区画漁業権内の漁場(縦10m×横10m)

試験区の設定：試験漁場に支柱用のコンポーズを立て、ステンレス製クランプでコンポーズを固定した。設置高の違いによる生育状況を把握するため、①地盤から約0.3m(以下「下段」という。)、②地盤から約1.0m(以下「中段」という。)、③地盤から約1.6m(以下「上段」という。)の3通りの高さにマガキシングルシードを入れたバスケットを設置した。

調査者：熊本北部漁協組合員1名、水産課1名 計2名

供試貝：県水産研究センターで種苗生産された殻高約30mmのマガキシングルシード

調査方法：令和2年(2020年)10月に供試貝のマガキをバスケットに収容し、その生残個数及び殻高を現場で測定した。各設置高のバスケットの1日あたりの浸水率を把握するためデータロガーを設置し、水温を自動測定した。また、1月から上段及び下段の性成熟の進行状態を分類・比較した。

結果：試験期間中の水温は10.2～24.3℃で推移し、試験開始時から徐々に低下した。

クロロフィルa濃度は1.9～9.4μg/lで推移し、試験開始時から11月と、2月以降高くなった。試験期間中の各設置高で死亡貝の発生はなかった。殻高は上段28.9mm、中段33.4mm、下段43.3mmと設置高の違いで成長が大きく異なった。また、推定浸水率は上段58.3%、中段62.5%、下段75.0%であった。性成熟の進行状態は、3月に上段と比較して下段が進行していることを確認した。

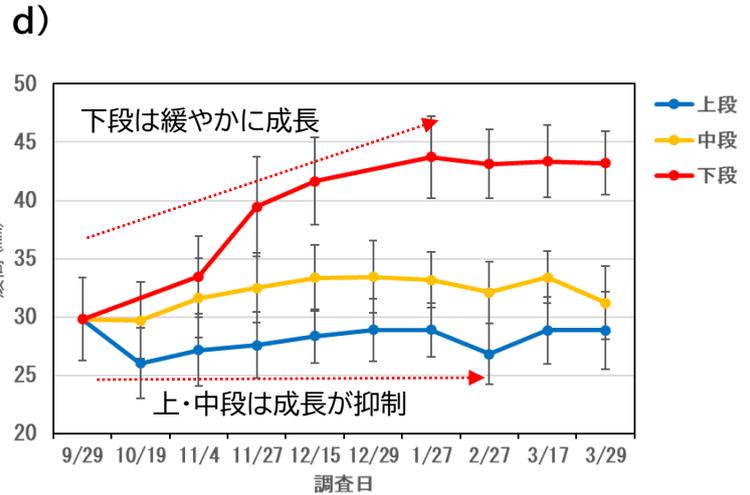
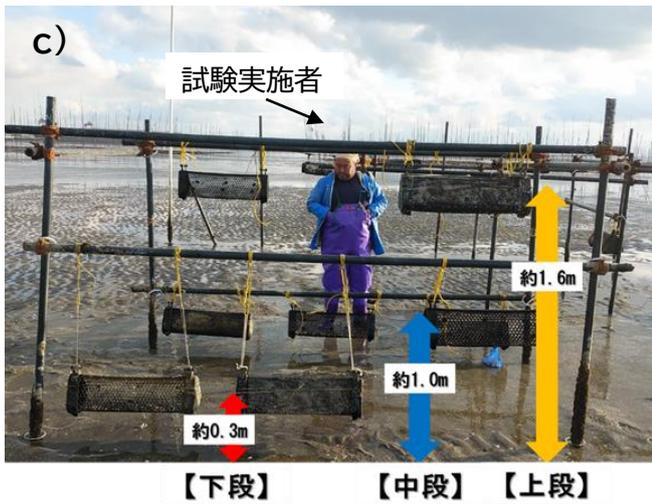
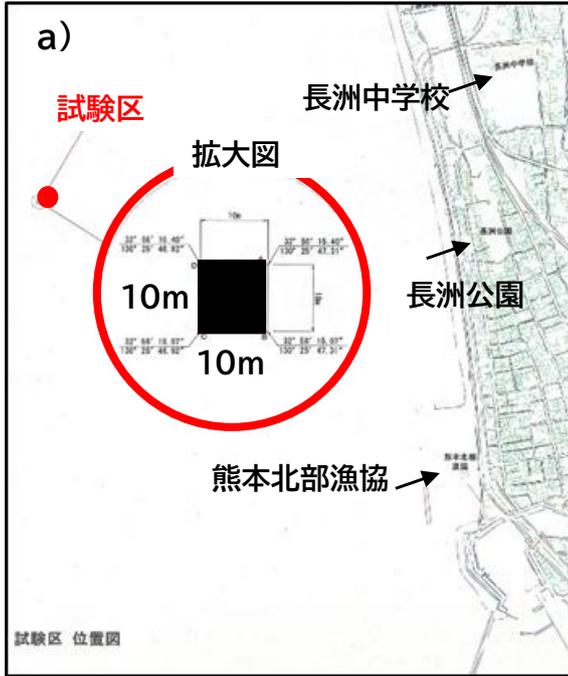
【成果・活用】

干満差で表面が削られ深みがあり、特徴ある形に生育しており、試験実施者も手ごたえを感じていた。また、設置高の違いによる生育特性が確認された。

【達成度自己評価】

3 おおむね達成できたが取組に改善を要する等の課題も見られた(51%～75%)

(様式)



- a) 試験実施場所
- b) 試験期間中の水温及び Chl. a の推移
(※長洲沖ブイデータから引用)
- c) 試験区設置状況
- d) 各設置高の違いによる殻高の成長推移
- e) 下段のサンプル
(令和3年(2021年)3月17日現在)